

# 山際塾長のこだわり教育論 2

## 子どもをほめていますか？

### うちの子はほめたらいい気になる？

前回では、子どもはほめられることで必ず伸びる、1日1回、子どものよいところを見つけ、必ずほめることの実行を提唱いたしました。

するとあるお母さまから、次のようなご相談を頂きました。

「子どもはほめてこそやる気を出し向上する、ということはよく分かるのだけど、でも、うちの子はほめると、逆に慢心して、いい気になって、もうこれでいい、と思ってしまい、それ以上やらない、だからつい、ほめないようになってしまいます・・・」

つまりほめることで、やる気を出すどころか、逆にやる気を出さなくなる、だから、あまりほめられない、とおっしゃるわけです。

確かに、これまでの長い間、あまりほめられずに育ってきた子どもの場合、いま急にほめられても、戸惑ったり、何かウラがあるのでは？と勘ぐったりして、素直にやる気を出せないことがあります。

またこれまであまり子どもをほめておられないお母さまには、上手にほめる、ということは意外にも大変難しいことです。ですからほめる方もほめられる方もどちらも最初はギクシャクします。

しかし、ここで負れたり、あきらめたりしてはなりません。さらに徹底してほめて、そしてほめまくることで、状況は必ず変わってくるのです。

### ほめれば、ますます子どもはやる気を出します。

子どもをほめないことで、その子にやる気をなくさせることはよくあっても、子どもをほめることで、やる気をなくす、というのは絶対にありません。

反対にお母様が先を急ぎすぎ「もっとやらせたい」という気持ちが高じて、ほめると

ころか、けなしたり、「そんなこと当たり前だ」とか「まだまだこんな程度では」とかいう言葉にて、子どもを励ましているつもりが、実は子どもにやる気を失わせていることが多いのです。

子どもは「慢心していい気になって」だからやる気をなくす、ということは実際にはありません。

まずはほめること、十分に認めてあげることが大切です。そして十分にほめられて「頑張れた」と慢心して(自信をもって)、いい気になった後に、次の目標と期待を子どもに伝えるのです。

子どもは大切にされ、愛され、ほめられることによって、すくすく伸びていきます。

## ほめるコツ

「上手にほめる」コツは、もちろんあります。

まず抽象的なほめ方よりも、具体的な行為を、ほめることです。例えば「今日もよく勉強していたね。」「いつも字がきれいだね。」「1時間は自分で勉強できるようになってきたね。このごろすごいね!」「前よりもテストの点が上がったね。よく頑張ったんだね。」などです。

日頃から子どもをよく観察して、なにかほめるところはないかな・・・と探しましょう。どんな小さなことでも何でもほめてあげてください。

また兄妹や他人と比べるようなことは言わないこと。ダメなところを責めるよりも良いところをほめて伸ばすようにすること、「もっとがんばれ」ではなく「頑張っているね」と現状を認めて、それをほめること、などです。

## ほめ言葉は気前よく

何よりも、心からの子どもへの愛情「まるごと好き」という気持ちが大切です。

そこに「飾りのないほめ言葉」が自然に口に出てきます。笑顔と「ほめ言葉」はケチらずに、気前よく振りまくことが大切です。